

2日目 オフィチエンシム アウシュビッツ第1収容所—3

国際青少年交流センター—ポーランドとドイツの歴史が交錯する場—

スモーレンさんのあとは、青少年センターで、現地のボランティアと交流、の予定だったのですが……

スモーレンさんのお話が長くなったので、ボランティアの方々が帰ってしまいました……



青少年センターの入り口にあるモニュメント

けれども、せっかくなのでそのセンターの概要について説明を受けることに。



施設の設立の経緯から、戦後のポーランドとドイツの複雑な関係、ポーランドの戦後の歴史などが見えてきました。

実をいいますと、この「説明」については、私が社会教育の授業の施設見学のレポートを兼ねて行えないか、と旅行会社を通して依頼していたものでした。

そして事前にドイツ語を話す日本人（=私）が来るというのが、伝わっていたので、直接ドイツ語で交渉し、帰り間際の職員の方にお話を伺うことができました。

という経緯のため……たどたどしくも私がドイツ語から日本語への通訳をすることに。



内心冷や汗で通訳

しかし、「1981年のときにポーランドが戦争状態になったため、センター設立のプロジェクトが中断」といわれたときには、面喰いました。

戦争状態なんて、そんなことありましたっけ？

あとで調べたら民主化運動の流れで、当時戒厳令がひかれていました。

そのことだったようです。

モニカさんの話では、そのときに生まれた子供たちは、

モノがない時代に育ったので「特別」だそうです。

そしてそれ以前と以降では、ポーランド人のなにかが違うと

いったいなにかが違うのか？

その疑問は立花先生も抱いたようです。

それは、夕食時のハプニングのときに、ヒントを得ることができました。

けれども、古ねこのそんな変化に気づかないなんて、

ねこ屋敷の住人のネコとして、私は未熟だったようです。



■立花先生の質問

ドイツ人に聞いてみたかったのだが、なぜ、ドイツ人はここ（アウシュビッツ）に来るのか？あれだけのことをやった、謝罪の気持ちからか？

ーセンター職員の方の回答：

ここに来る人たちは若者なので、歴史で学んだアウシュビッツをみてみたい、ポーランドに来たいというのが動機。ナチは狂っていたと思うし、なぜこんなことが起きたのかは、できたのかは理解できない。

けれども、それは歴史である。

受け止めなければいけない。